

COP27の焦点： グローバル・ストックテイク（GST）とは

気候変動とエネルギー領域 プログラムマネージャー
津久井 あきび

本日お伝えすること

1 パリ協定におけるGSTの位置付けと概要

2 これまでの実施状況

3 COP27に向けて

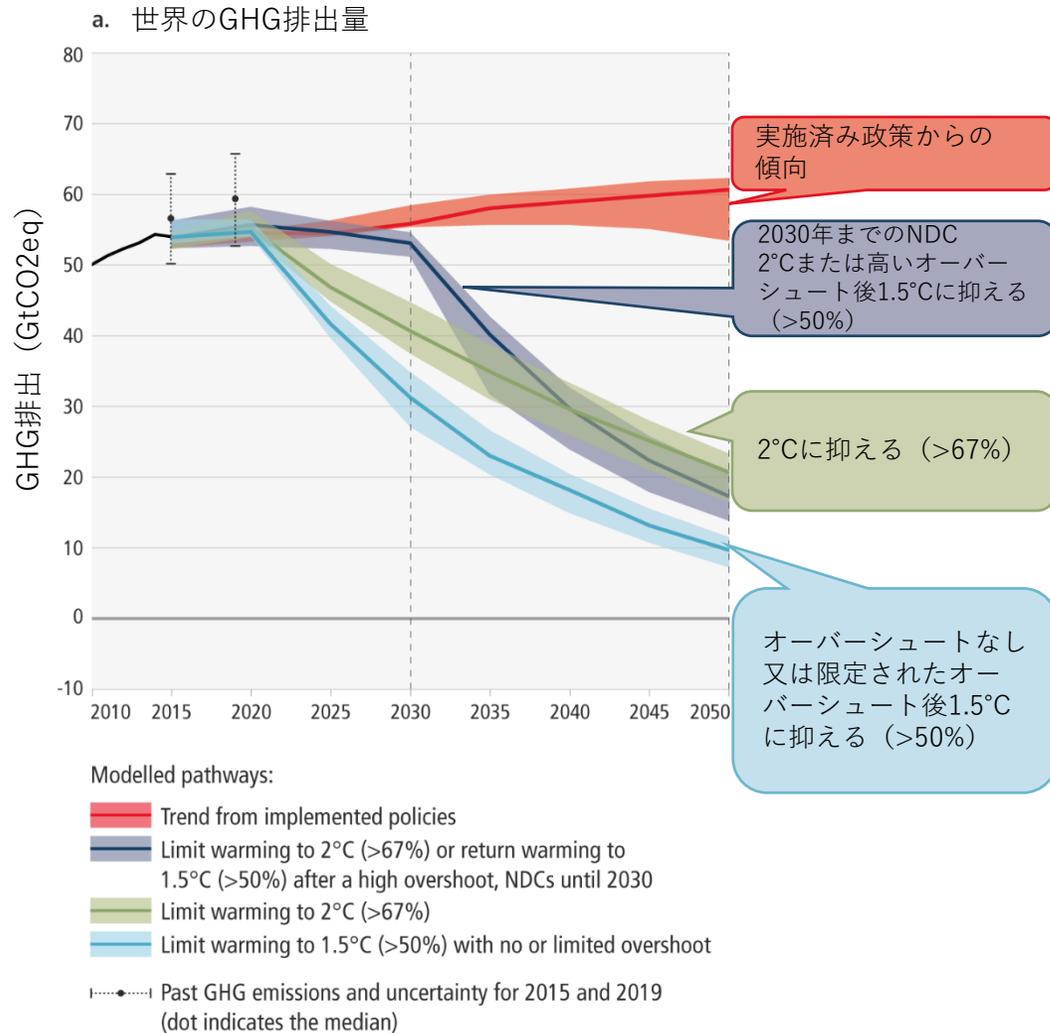
本日お伝えすること

1 パリ協定におけるGSTの位置付けと概要

2 これまでの実施状況

3 COP27に向けて

パリ協定実施のギャップ



排出ギャップ (emissions gap)

COP26以前に発表された自国が定める貢献 (NDC) の実施に伴う2030年の世界全体のGHG排出量では、21世紀中に温暖化が1.5°Cを超える可能性が高い。

2030年以降の急速な緩和努力が必要

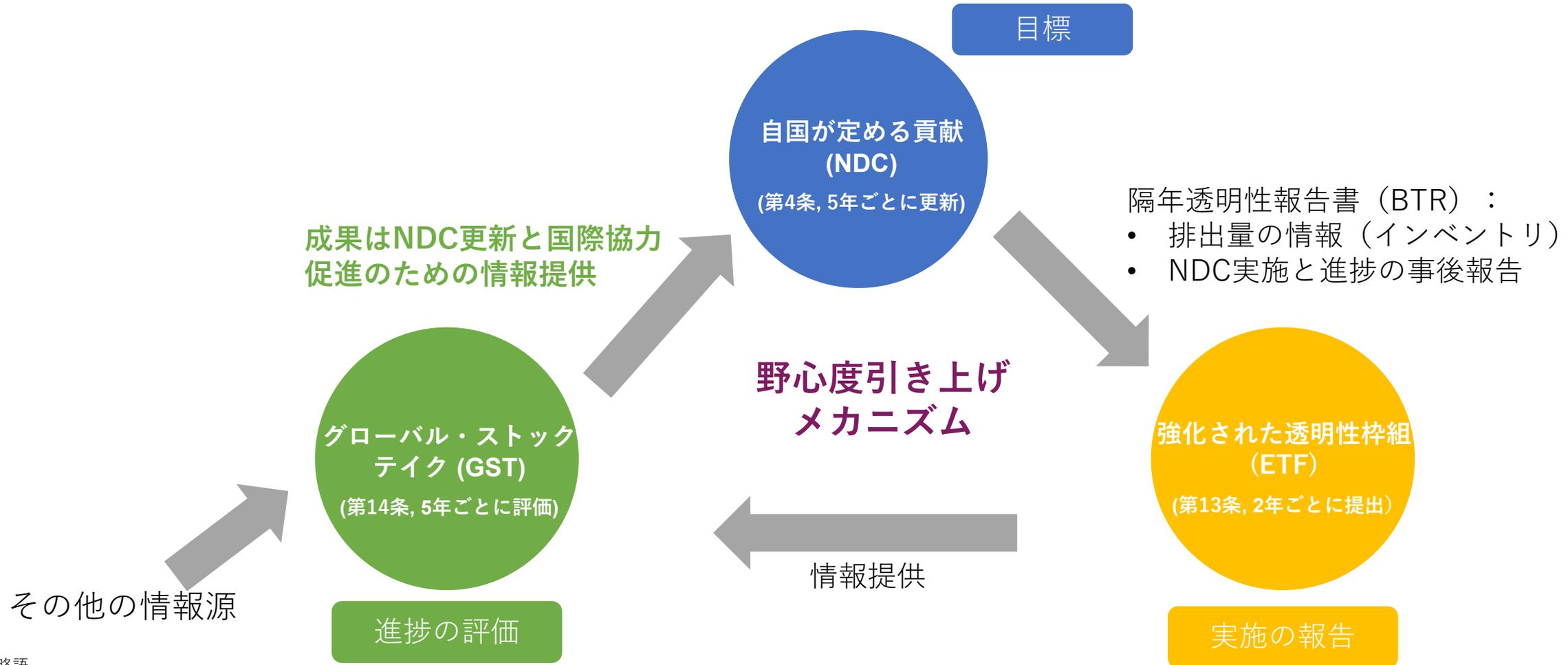
実施ギャップ (implementation gap)

2020年末までに実施された政策の結果は、NDCの実施により示唆される世界全体のGHG排出量よりも高いGHG排出量になると予測される。

- NDCは2025年に更新される。
- ギャップを縮めるためにはより高い目標設定とNDCを実施するための政策強化が求められる。

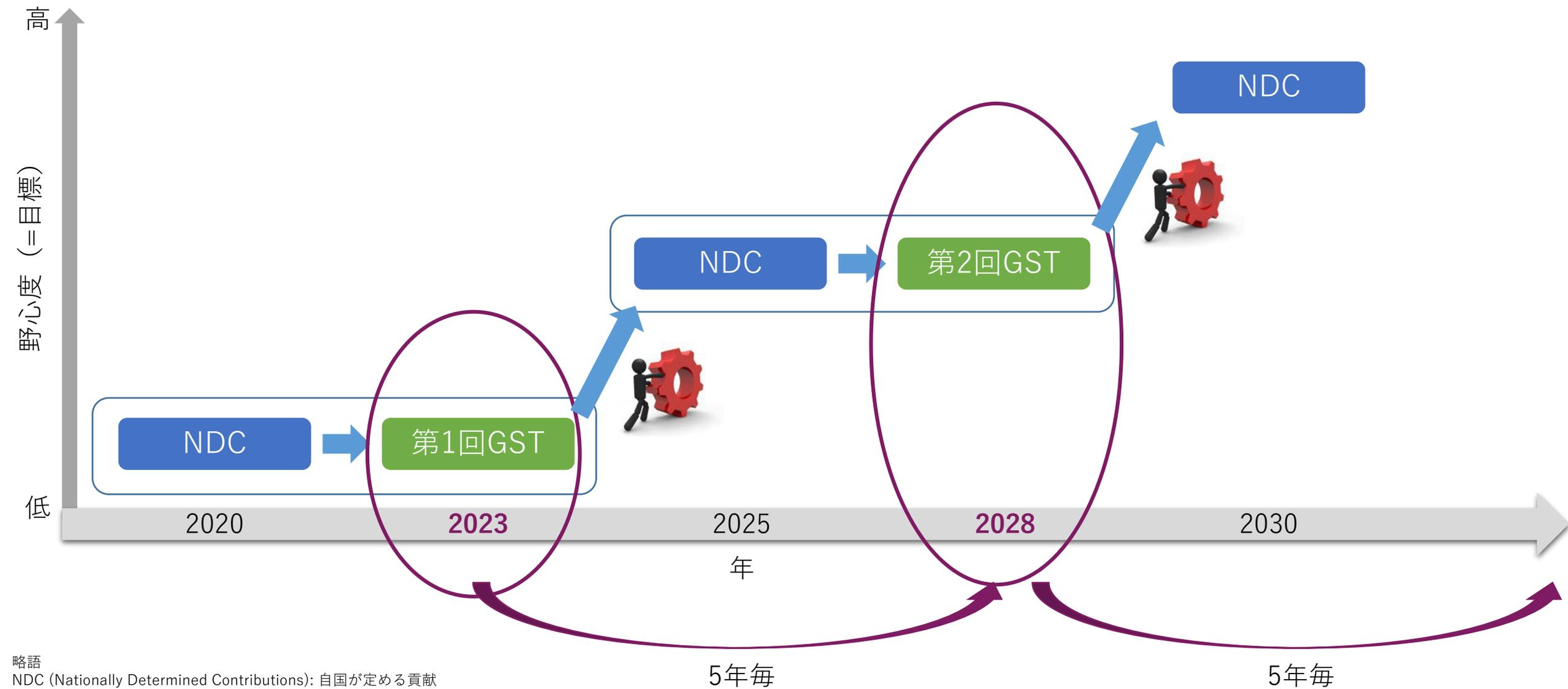
ギャップを埋める鍵：パリ協定野心度引き上げメカニズム

GSTとは、パリ協定の長期目標達成に向けた世界全体の進捗を評価する仕組み



略語
NDC (Nationally Determined Contributions): 自国が定める貢献
ETF (Enhanced Transparency Framework): 強化された透明性枠組み
BTR (Biennial Transparency Report): 隔年透明性報告書
GST (Global Stocktake): グローバル・ストックテイク

時間の経過とともに野心が引き上げられる



略語
NDC (Nationally Determined Contributions): 自国が定める貢献
GST (Global Stocktake): グローバル・ストックテイク

※参照: Tamura et al (2016). Empowering the Ratchet-up Mechanism under the Paris Agreement: Roles of Linkage between Five-year Cycle of NDCs and Long-term Strategies, Transparency Framework and Global Stocktake

評価範囲：なにを検討するのか？

評価分野

緩和

適応

実施手段と支援
(資金、技術、
キャパシティ・ビルディング)

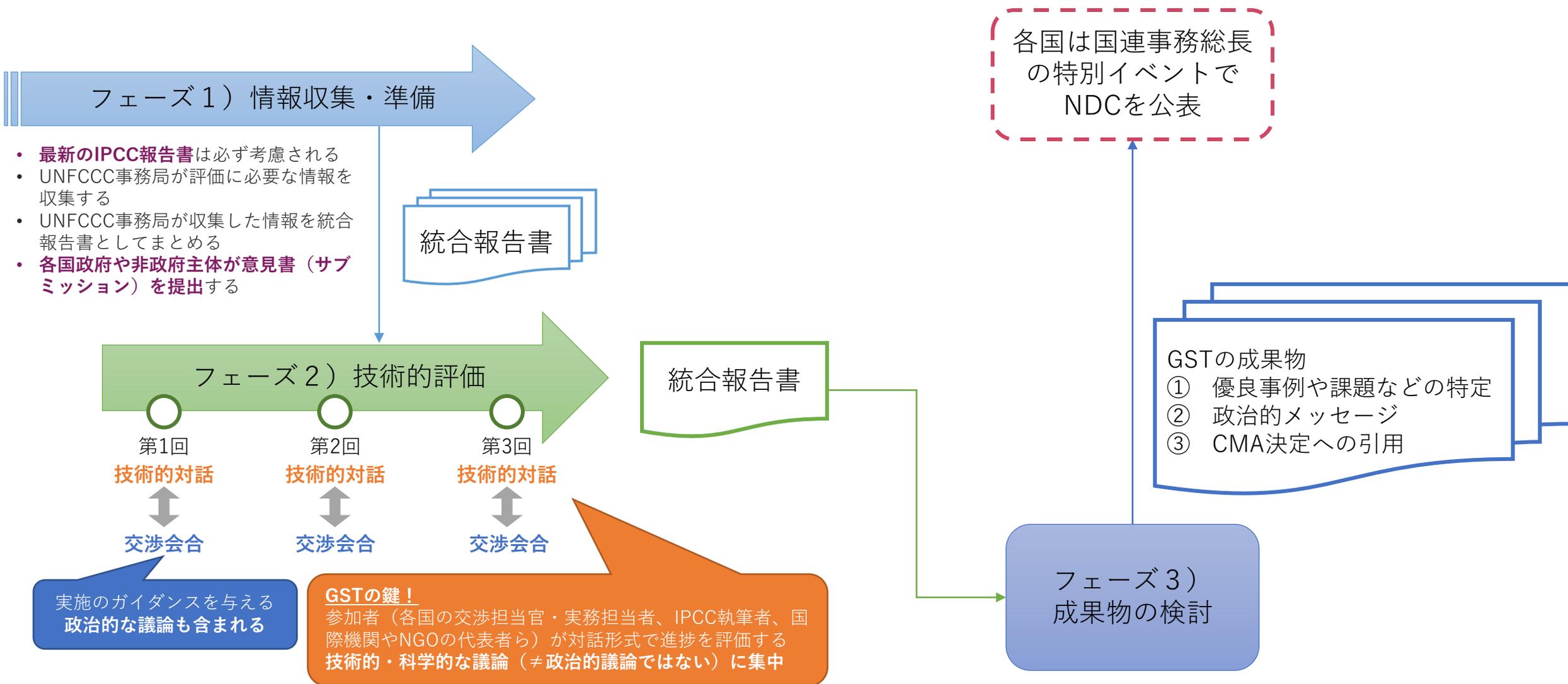
分野横断的課題

対応措置実施の影響
(気候変動対策の実施による
社会経済的な影響)

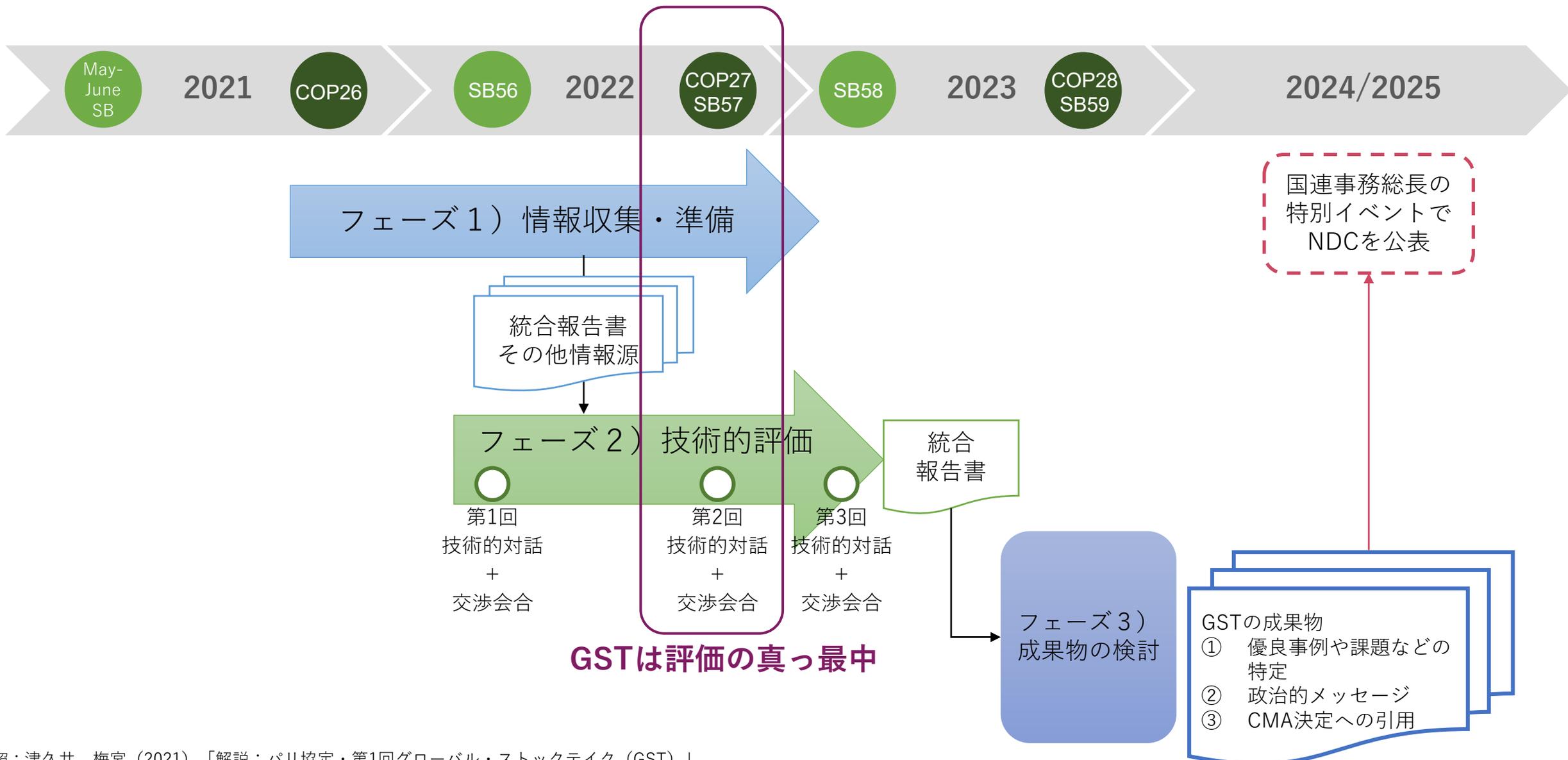
損失と損害

評価原則：「衡平性」「利用可能な最良の科学」

GSTの3つのフェーズ：どのように実施されるのか？



第1回GSTスケジュール：COP26で開始し、COP28で終了。現在評価の真っ最中。



GSTの実施に不可欠な要素とは

“Learning by doing” (実施しながら学ぶ)

- パリ協定下初めてのGST
- **実施経験に基づき仕組みを改善**

包括的な参画

- 先進国だけでなく途上国も
- **政府だけでなく非政府主体も**
- 地域バランス、ジェンダー、ユース、先住民族等も

プロセスの透明性

- 全ての関係者、参加者に対してオープン
- 全ての**参加者間での信頼の構築**

本日お伝えすること

1 パリ協定におけるGSTの位置付けと概要

2 これまでの実施状況

3 COP27に向けて

フェーズ1) 情報収集・準備では何が実施されたのか？

技術的対話に必要な情報の収集

- UNFCCC事務局が情報源リストに沿って情報を収集
- UNFCCC事務局が収集した情報をまとめた統合報告書を公開
- 各国政府や非政府主体が意見書（サブミッション）を提出



宇宙航空研究開発機構（JAXA）と IGESの共同意見書（サブミッション）

トピック：GOSATの観測による大気中のGHG濃度変化、他

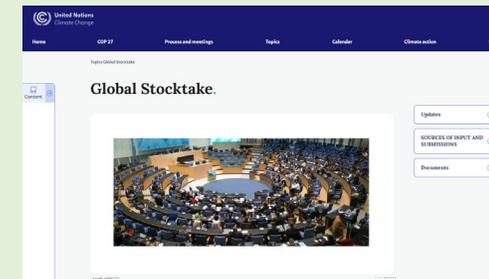
技術的対話実施の準備

- 技術的対話の共同ファシリテーターを選定



Harald Winkler氏（南アフリカ） Farhan Akhtar氏（米）

- GSTウェブサイトの内容の充実



写真：UNFCCC GST Website

フェーズ2) 第1回技術的対話はどのように実施されたのか？

1 政府・非政府主体の平等で包括的な参画の実現

- 参加者は非常に多様であった（各国の交渉担当官や実務担当者、IPCC執筆者、国際機関やNGOの代表者等）。
- 非政府主体の参加枠も確保され、対話に参加する機会が与えられた。
- 非政府主体の発言は政府主体と平等に扱われ、記録された。

2 対話を重視した会議スタイルの導入

- ラウンドテーブル：緩和・適応・実施手段と支援のテーマごとに、IPCC執筆者・国際機関の代表者がプレゼンを実施し、参加者が意見交換を行った。
- ワールドカフェ：事前に用意された12のトピックについて、参加者間で少人数、非公式な環境で議論が実施された（トピック例：エネルギー移行、自然に基づく解決策、資金フロー）。
- **これまで実施されてきた一方通行のコミュニケーション／質疑応答スタイルからの脱却、新しい対話スタイルへの挑戦が見られた。**



第1回技術的対話を終えて見えた課題

1 フェーズ1)情報収集・準備とのつながりが見えにくかった

- 収集した情報が対話にどのように活用されたかが不透明であった。

2 具体的に取り得る対策や行動についての議論はあまりなされなかった

- ステートメント形式の発言も多く、これらは建設的かつ具体的な議論になりにくかった。

3 技術的対話と政治的議論の切り離しに課題が見られた

- 歴史的な排出量の責任など、政治的な議論を必要とするトピックは対話につながらなかった。

本日お伝えすること

1 パリ協定におけるGSTの位置付けと概要

2 これまでの実施状況

3 COP27に向けて

COP27での注目ポイント

COP27で実施されること：

- **第2回技術的対話**
- 交渉会合（第2回技術的対話の振り返り＋次回以降のプロセスへのガイダンス付与）

第2回技術的対話の注目ポイント

ポイント1. 対話のスタイルは対話の内容と質にどのような変化を与えるのか？

- 第1回技術的対話の反省を活かし、対話のフォーマットが改善される。
 - ラウンドテーブル：（第1回技術的対話）大テーブル1つで20個以上の”キーワード”で議論⇒（第2回技術的対話）4つの小グループに分け、テーブル毎にトピックを絞って対話を実施。
 - ワールドカフェ：（第1回技術的対話）12個のトピック⇒（第2回技術的対話）20個のトピックに増加
- **対話は非常にレベルの高いコミュニケーション手法である。少人数かつトピックが絞られたことで政治的な議論を避け、対話に集中することができるか？**

ポイント2. 特定されたギャップはどのように埋められるか？

- 排出ギャップ、実施ギャップ等、実施におけるギャップに対し共通の理解を持つことが促された。
- **こうしたギャップ埋めるための行動について対話を重ね、最終的にその差を縮めるための野心的で現実的な対策を示すことができるか？**

公式GSTの外で高まるGSTモメンタム

COP27 Global Stocktake Climate Datathon

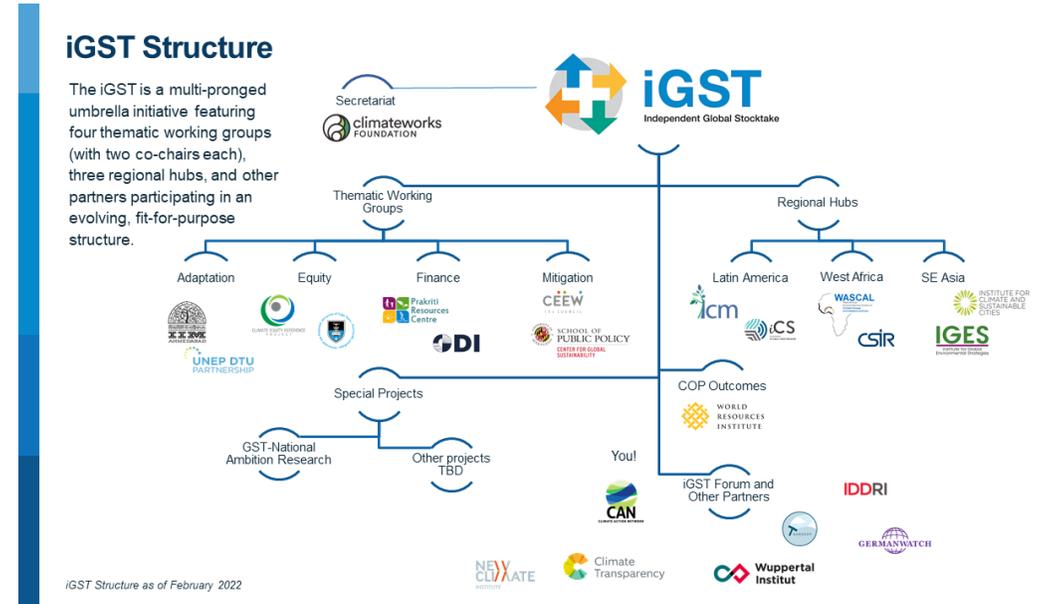
Build the future of climate data

↓

[Learn more](#)

GST Climate Datathon

GST実施を支援するデータ収集、分析、可視化、支援ツールの開発を目指す。



independent Global Stocktake (iGST)

非政府主体による研究、実践、提言を通じてGST実施を後押しする。

非政府主体による中立的な視点・立場からのインプットはGST成功の鍵となる

まとめと今後の展望

- パリ協定の実施にはギャップがあり、気候変動対策と行動は目標達成に向けた軌道に乗っていない。
- GSTはそのギャップを埋めるための鍵となる。
- 第1回GSTはCOP26で開始した。COP27では**第2回技術的対話**と交渉会合が実施される。
- COP27では、実施のギャップを埋めるために取り得る対策や行動について対話が行われ、最終的にその差を縮めるための野心的で現実的な対策を示すことが求められる。

今後の注目ポイント：GSTはNDCの強化につながるか

- NDCが”強化される”とは (Fransen.T et al, 2017) ?
 - ✓ GHG目標の強化、対象となるGHGの追加
 - ✓ GHG以外の目標（例：再エネ導入量、森林面積増加）の強化・追加
 - ✓ 政策や行動の強化・追加
 - ✓ 既存のNDCの実施と長期目標の整合性
- 排出ギャップ = 予測される世界のGHG排出量 - NDCが示唆するGHG排出量
- 実施ギャップ = NDCが示唆するGHG排出量 - 既存の政策から期待される結果
- NDCを実施するための行動や政策を強化することは実施のギャップを閉じるだけでなく、更なる目標の強化につながる可能性がある。

ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域／プログラムマネージャー

津久井 あきび

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関

ウェブサイト

UNFCCC COP27特集

UNFCCC COP27 特集



新着情報

COP27直前ウェビナーシリーズ

研究者の視点

論点Q&A集 (準備中)

関連出版物

IGES関連プロジェクト

2022年11月6日（日）から11月18日（金）にかけて、エジプト シャルム・エル・シェイクで国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27）が開催されます。このページでは、IGES研究員がCOP27に先立ち開催される気候変動に関する交渉会議や様々な重要なイベントを盛り込みながら、COP27を解説します。IGESが出版した関連出版物や、COP27の開催期間中のサイドイベントの情報も随時アップデートします。

ウェブページリンク

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/cop27>

Global Stocktake



新着情報

GSTを学ぶ

国際会議とGST

関連文献

関連プロジェクト

2021年11月に英国・グラスゴーで開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）で、ついにパリ協定のルールブックが完成しました。「行動」の段階に入った2022年以降、各国は合意されたルールに則り、パリ協定の目標達成に向けてさらに野心的な行動を取ることが求められます。そこで注目されるのが、この目標の世界全体の進捗状況を評価する仕組み、「グローバル・ストックテイク（Global Stocktake: GST）」です。2021年11月から2023年11月にかけて実施される第1回GSTは2023年までの世界の気候変動対策における重要な焦点の一つです。

本ページではGSTの内容をQ&Aを交えながら詳しく解説するとともに、最新の動向を発信していきます。

ウェブページリンク

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/gst>

参考文献

IPCC AR6 WG3 SPM :

https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg3/downloads/report/IPCC_AR6_WGIII_SPM.pdf

JAXA-IGES合同意見書（サブミッション）：<https://www.iges.or.jp/jp/pub/gosat-ghg-concentration-trends/en>

UNFCCC GST ウェブサイト：<https://unfccc.int/topics/global-stocktake>

第1回技術的対話サマリ報告書：

https://unfccc.int/sites/default/files/resource/GST%20TD1_1_sreport_26_09_2022_Final.pdf

梅宮・津久井（2022）「[パリ協定・第1回グローバル・ストックテイク（GST）の展望：第1回技術的対話を終えて](#)

津久井、梅宮（2021）「[解説：パリ協定・第1回グローバル・ストックテイク（GST）](#)」

決定19/CMA.1：https://unfccc.int/sites/default/files/resource/CMA2018_03a02E.pdf

Fransen.T et al. (2017) 「[ENHANCING NDCS BY 2020: ACHIEVING THE GOALS OF THE PARIS AGREEMENT](#)」